

子どもが学びをつなぐ外国語科学習

外国語科

山口 耕
荒川 ひかり



研究テーマについて

1 深い学びのある授業のなかで見えてきた子どもの姿

これまでに外国語科研究部では、外国語科・外国語活動の特質に応じた学びの本質とは何か、思いや考えの共有につながる相手意識とは何かを探る研究を進めてきた。深い学びのある授業を実践するなかで、以下のような姿が見られた。

- 「互いのことを伝え合う」ととどまらず、「互いのことをもっと知って仲よくなろう」とする意欲的な姿
- 単元の導入からゴールに至るまで「伝えるのが楽しみ」、「早く知りたい」という思いをもつ姿
- 仲間の伝えたいことの思いを受け止めてアドバイスしたり、英語を訂正したりする姿
- 仲間の意見を尊重したうえで、アドバイスされた英語にするか、自分で考えた英語にするか判断する姿
- 「自分の思いや考えを伝えるには」、「伝える相手に伝わるようにするには」という思考を伴って考える姿
- ふりかえりの発言や学習プリントの記述に「～を知ることができてよかった」等のその單元ならではの思いや考えが伴う姿

2 学びをつなぐ姿

コミュニケーションは双方向のやり取りであるため、「話し手」は「聞き手」でもある。子どもは「話し手」として相手に分かってもらうために自己を表現したり、「聞き手」として相手の背景等を受け止めながら聞いたりしている。これまでの研究において外国語科研究部では、「話し手」と「聞き手」が互いに相手意識をもつことを大切にしている。研究をとおして、外国語科における学びをつなぐ姿は以下のように捉えた。

- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、自分の伝えたいことが相手により伝わるように表現する姿
- 相手のことをもっとよく知るために、相手に配慮しながら積極的にコミュニケーションを図る姿
- 日本と外国の文化の違いについて、比較しながら捉えようとする姿

総合的な学習の時間や生活科及び特別活動とかかわる資質・能力について

外国語科・外国語活動の学習では、日本と外国の文化の違いを比較する活動や、相手により伝わりやすい英語表現を考え、積極的にコミュニケーションを図ろうとする活動が行われる。総合的な学習の時間や生活科及び特別活動とは、以下のようなかかわりがあると考えられる。

- 探究的な課題を解決するために、異なる言語や文化の違いを比べたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりしながら、思いや考えを共有する。
- 外国の人々や文化にふれる活動に親しむことで、社会とのつながりや国際理解の意識が高まる。
- 思いや考えを伝えるための表現づくりをとおして、伝える工夫について仲間と話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。

研究内容

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

- (1) 外国語で伝え合うモチベーションを高めることのできる導入の在り方
- (2) 表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感させることのできるふりかえりの在り方

研究内容の基本的な考え方

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

外国語科において「学びをつなぐ」子どもを育成するためには、子どもに「もっと相手と英語で話がしたい」、「もっと知りたい」という思いをもたせることが大切である。また、外国語によるコミュニケーションをとおして、自分が言いたいことを相手に伝えられたときの喜びや仲間の知らないことが分かった満足感を味わわせることも大事である。更には、それらを学級全体で共有できるふりかえりの時間も、次時や次の単元へのモチベーションを高めるうえで重要となる。そのため次の2点について研究を進めることにした。

(1) 外国語で伝え合うモチベーションを高めることのできる導入の在り方

子どもが外国語で伝え合うモチベーションを高めている姿とは、外国語で伝え合う目的や場面、状況を理解したうえで、ゴールイメージの実現に向けて、どのような表現が必要かを子ども自身が考える姿と捉える。

1 単位時間のなかで、自分が言いたいことをどのように表現すればよいかを考えたり、仲間で伝えたいことを推測しながら聞いたりすることが大切である。そのような学びの姿を実現するために、単元をとおしてめざす姿を学級全体で共有するための手立てについて追究する。

そこで、外国語で伝え合うモチベーションを高める手立てとして、子どもが必要な表現に慣れ親しむのに効果的な黒板掲示を使うこと、教師と子どものやり取りを全体で行うこと、教師によるスマールトークについて内容を推測しながら聞かせることの3点が有効であると考えた。



【スマールトークの様子】



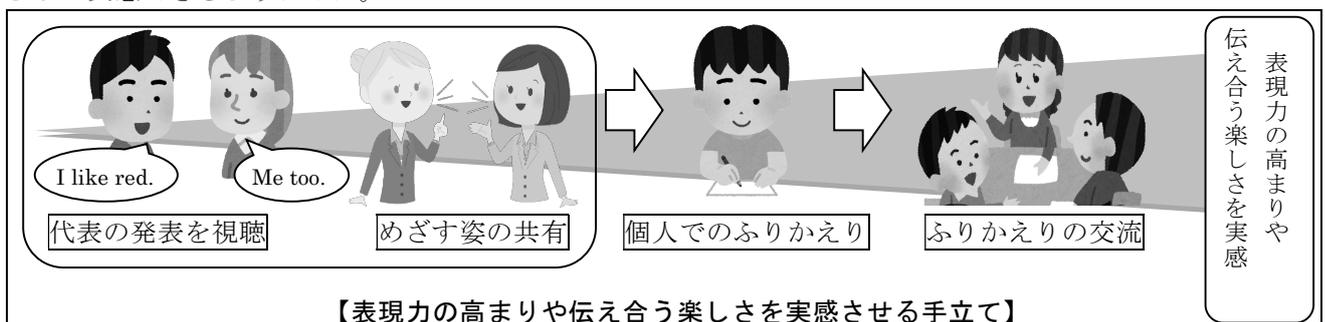
(2) 表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感させることのできるふりかえりの在り方

1 単位時間の学習において、子どもは外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、前単元や前時の学習内容と本時学習で新しく出会う内容との違いについて比較しながら考える。そのなかで、学んだ語句や表現を使って、自分の言いたいことが伝えられたり、相手の伝えたいことが聞き取れたりしたときに、伝え合う楽しさや表現力の高まりを感じることをできると考えた。

そこで、終末の段階で、代表の子どもの発表から、本単元でめざす姿を共有したうえで、個人でふりかえりをさせ、仲間と交流させることで、自分や仲間のよさを認め合うことができるようにした。また、単元をとおして1枚の学習プリントでふりかえらせることで、前時と比べながら自分や仲間の表現力の高まりが実感できるようにした。



【発表の様子】



研究の実際

第3学年 10月 This is for you. カードをおくろ

(1) 外国語で伝え合うモチベーションを高めることのできる導入の在り方

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間の導入において、少しずつ語句や表現を増やしなが、単元ゴールにつながる教師と子どもによる英語のやり取りを行った。 ○ 教師と子どもの英語を用いたやり取りから、既習の語句や表現と比較させ、違いに気付かせた。
子ども表れていた姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを立てる場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 形のカードを用いながら、前単元で学習した “What do you like?” を想起し、本単元の “What do you want?” のやり取りをする姿 ○ ペアでやり取りをする場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションのポイントを意識しながらやり取りをする姿
考察	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と子どもによる英語を用いたやり取りを継続していくなかで、既習事項と比較したり、本時で学ぶ語句や表現等を焦点化したりする力が身に付いてきた。 ○ ゲーム活動やグリーティングカードの提示により、子どもの興味・関心を高めることはできたが、「目的」「場面」「状況」の共有が不十分であった。外国語で伝え合うモチベーションを高めるためにも、子どもに明確な目的意識をもたせて活動に取り組ませることが大切である。



【ペアでのやり取りの様子】

【効果的な黒板掲示】

(2) 表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感させることのできるふりかえりの在り方

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 代表ペアや教師と子どものやり取りを視聴し、よいところを全体で共有したり、表現力の高まりに気付かせたりするために、単元導入時や前時のやり取りと比較させた。 ○ 単元ならではの新しく出合った語句や表現への気付きと、教師や仲間とのやり取りで気付いた自分や仲間のよさをふりかえらせた。
子ども表れていた姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふりかえりの場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表ペアの発表の視聴や仲間との教え合いのなかで、仲間のよいところに気付く姿 ・ 初めて出合った形を表す語句の発音についての気付きやグリーティングカードへの興味、カードを作成してプレゼントをしたいという思い等、今後への期待感のあるふりかえりを記述する姿 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>③ くふうしてあいての話を聞いたり、話したりできたかな？ (つたわる声、アイコンタクト、ジェスチャー、はんのう、ひょうじょうなど)</p> <p>ふりかえり (前時と比べてできるようになったこと・なかまのよかったこと・新発見・楽しかったこと・次にむけて)</p> <p>前よりの形を伝えるようになりました。三角のカードが、さかしかつたです。グリーティングカードは、ハートの星を入れたいです。</p> <p style="text-align: center;">【第2時の子どもの記述】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>③ くふうしてあいての話を聞いたり、話したりできたかな？ (つたわる声、アイコンタクト、ジェスチャー、はんのう、ひょうじょうなど)</p> <p>ふりかえり (たん元をふりかえて、できるようになったこと・感じたこと・なかまのよかったこと)</p> <p>自分かつたお祝いとこをえい話(つたえられて)かつたお祝い発表しているときチームのさがあつてくれたので上手に言えることができました。</p> <p style="text-align: center;">【第5時の子どもの記述】</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">【学習プリントから見られる子どもの記述の変容】</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふりかえりにおいては、「～ができるようになった。」等の肯定的なものだけでなく、「～がしたかったけれど、できなかった。」等の子どもの素直な思いも引き出すことができた。それを仲間同士で共有することも課題の把握や教師の授業改善につながり、表現力を高めることに結び付くのではないだろうか。子ども全員が自信をもって活動に取り組み、表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感できるような手立てについて今後考えていきたい。

第5学年 11月 This is my sister. 身近な人のしょうかい

(1) 外国語で伝え合うモチベーションを高めることのできる導入の在り方

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元全体をとおして、スモールトークを充実させ、黒板掲示を工夫し常に意識させた。 ○ 本時は、導入で単元ゴールのイメージを確認し、スモールトークをとおして紹介に必要な英語表現等を推測させながら聞かせた。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを立てる場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「仲間に向けてスピーチをしたい」「どんな表現をすれば伝わるかな」という思いをもつ姿 ○ 仲間にインタビューをする場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の目を見ながらやり取りをする姿 ・ 仲間からのアドバイスを生かしてジェスチャーが増えたり、英語を言い換えたりする姿
考察	○ ALTや学年の先生といった、子どもにとって身近な人物についての紹介をスモールトークに取り入れたことで、英語が身近なものとなり、より関心を高めることができた。



【ペアでのやり取りの様子】

【効果的な黒板掲示】

(2) 表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感させることのできるふりかえりの在り方

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や仲間ができるようになったことだけでなく、やりたかったけれどできなかったこと等、次時の学習につながる内容を出すことができるように、自分の課題を仲間と共有できる時間を確保した。 ○ 代表の子どもの発表を全体で視聴し、自他のよいところを共有したり、グループで意見交換をしたりした。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで仲間の紹介をする場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくり話したり、繰り返し話したりする姿 ○ 代表の子どものスピーチを視聴する場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アイコンタクトや英語で反応を返すことができていた。」「分かりやすくゆっくりと話することができていた。」等のよいところを学習プリントに記述する姿
考察	○ ふりかえりにおいて、モチベーションを高めて次時につなげるために、「できたこと」だけでなく、「したかったけれどできなかったこと」等も考えさせた。しかし、できなかったことばかりに目を向けてしまうと、意欲や自己肯定感を下げってしまう可能性があるため、子どもの思いも大切にしつつ、「もっとできるようになりたい」という次時に向けた意欲的な思いへとつなげる必要がある。

今年度の研究のまとめ

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

(1) 外国語で伝え合うモチベーションを高めることのできる導入の在り方

- 導入時の英語でのやり取りやスモールトークから、本時でめざす姿につながる英語表現等を、子どもが意識できるようになってきた。
- 子どもが伝え合いたいと思う単元構成にしていくことで、明確な目的意識をもたせて活動に取り組みさせることが大切である。

(2) 表現力の高まりや伝え合う楽しさを実感させることのできるふりかえりの在り方

- 表現の高まりを実感できるふりかえりを継続してきたことで、自他の成長を認め合う姿が見られた。
- 自己評価の低い子どもの意欲をどう高めていくのか、その手立てを考えて授業を構成する必要がある。